



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Vulnerability as the Beginning of Care in Modernist Literature : F.Scott Fitzgerald, Raymond Chandler, Henry Miller, and J. D. Salinger [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	井出, 達郎
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	乙第7225号
Issue Date	2025-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94855
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Tatsuro_Ide_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）

氏名：井出 達郎

主査	教授	竹内	康浩
審査委員	副査	准教授	小椋 彩
	副査	教授	野村 益寛
	副査	准教授	宮澤 優樹（金沢大学）

学位論文題名

Vulnerability as the Beginning of Care in Modernist Literature:

F. Scott Fitzgerald, Raymond Chandler, Henry Miller, and J. D. Salinger

（モダニズム期のアメリカ文学におけるケアのはじまりとしての傷つきやすさ

—— F. スコット・フィッツジェラルド、レイモンド・チャンドラー、
ヘンリー・ミラー、J. D. サリンジャー）

・当該研究領域における本論文の研究成果

しばしばモダニズム文学は、人間を「もともと孤独であり、非社会的であり、他の人間との関係に入ることができない」ものとして描く、とされている。しかし、本論文は、ジャン＝ミシェル・ガントーやジェニファー・トラヴィスなどによる脆弱性に関する研究を手がかりにしつつ、フィッツジェラルドを初めとする広義のモダニストの作家たちの描く人物たちを特徴付けているのが、自己充足よりもむしろ脆弱性であることを新たに示していく。また、そもそもケアに関する研究は介護に関するものとして、あるいは、キャロル・ギリガンを初めとするフェミニズムの視点から議論される傾向にあったが、本論文は男性作家の作品の男性登場人物が抱えている脆弱性に注目することで、おのものの脆弱性が自らを他者とケアの関係で取り結ぶ積極的な意義を持つものであるとし、ケアに関する研究の地平を拡張しようとする大胆かつ意欲的な取り組みであると見なすことができる。その主張を裏付けるのは、男性 4 作家の諸作品をその歴史的な文脈を考慮しつつ丹念に精読していくという着実なもので、先行研究の検討も広範かつ妥当なものであり、重要な学問的意義を有するものだと言える。

なお、本論文の一部は、3 本の査読論文、3 本の紀要論文、また 1 件の学会発表の内容を含むものであり、一定の評価を得ている。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は上述した成果を大いに評価するが、その一方で、課題として残された問題点についても執筆者へ指摘を行った。

そもそも、本研究はそのテーマにもかかわらず、4人の男性作家を研究対象にすることで、読まれるべきテキストとしての男性作家の権力を再強化してしまうのではないかという懸念、またケアの主題を論じるにふさわしい作品、例えばフィッツジェラルドの代表作である『テNDER・イズ・ザ・ナイト』が論じられていないことに対する不満は、複数の委員が挙げた問題点であった。しかし、口頭試問において、本論文を元に学術研究書を刊行する際には、本論文以外にすでに準備している論考を加えて、これらの指摘に対応しつつ、より高度な議論へと改善してゆくことが可能であると確認できた。以上の審査状況に基づき、本審査委員会は全員一致で井出達郎氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であると判断した。